

まちづくり新聞 39 号

～バリアフリーアピール～

☆アピールとは☆

地域の皆さんや行政が参加して、より良いまちづくりへの想いと、取材した店舗や施設のアピールを込めたものです。

記号のご案内



自動ドア



エレベーター



車いす可能
エレベーター



エスカレーター



車いす可能
エスカレーター



駐車場



スロープ



段差



だれでもトイレ



手すり付き男子トイレ

三ノ輪橋停留所前トイレ



☆内 容☆ 誰でもトイレ・トイレ

・所 在 地 荒川区南千住 1-16-7
東京さくらトラム(都電荒川線)
「三ノ輪橋」停留所前

・施設内容

男子トイレ: バリアフリートイレ、
トイレ小 2 基(車椅子・ベビーカー
はバリアフリートイレ使用)

女子トイレ洋式トイレ 1 基



トイレ全景

三ノ輪橋

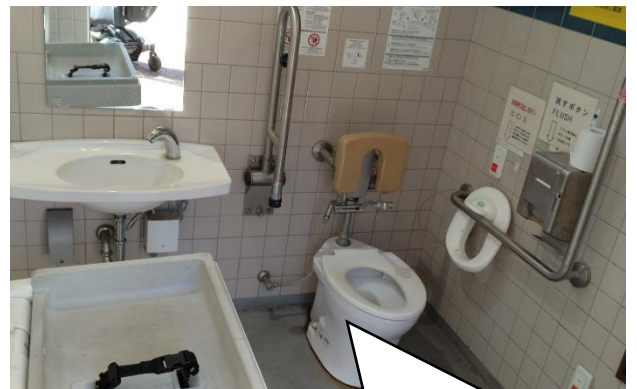
停留所前 誰でもトイレをご紹介します。

台東区の日比谷線が走る、上野、御徒町、入谷、そして三ノ輪駅。それ以外もう一つの「三ノ輪」と付く駅と言えば、日本で唯一都電が走る荒川線。始発の三ノ輪橋駅。ご存知とは思いますが、所在地は荒川区南千住。その都電の駅の停留所前に誰でもトイレができました。外観は茶塗りの建物で、男性トイレには車いすのまま入れるものと（女性供用）、手すり付の小便トイレがあります。多少レトロ調な木造りですが、車いす用の方は、ベビーシートとオストメイトが完備されています。

都電荒川線が通る線路沿いに三ノ輪商店街通称「ジョイフル三ノ輪」があります。アーケードで覆われていて、多種多様なお店が軒を連ねています。詳しくはジョイフル三ノ輪で検索してみてください。又は直接行って見るのも良いと思います。

今回出した荒川線三ノ輪駅の乗り口に入る方の通り沿いに、昔の都電や都バスの思い出館があります。建物自体狭く、車いす1台入れるぐらいです。

もう一つ三ノ輪と言えば、野村胡堂（のむらこう）原作の時代劇「銭形平次」を思い出します。私が観ていた銭形平次（ぜにがたへいじ）は昭和41年～59年までテレビドラマで888回放送されて、ギネス記録に載った、主役の平次は大川橋蔵（おおかわはしぞう）。岡っ引きの平次にライバルの同じ岡っ引きのレギュラーとして出てくる三ノ輪の万七（みのわのまんしち）です。遠藤太津郎（えんどうたつお）の大柄で、声が大きい万七はいつも銭形平次に手柄を取られてしまいます。しかし、たまに平次が「三ノ輪の、これはおめいの手柄だぜ」というと、感涙にむせびながら、「済まねえ、



誰でもトイレ（男子用）内部です。仕様は女子用誰でもトイレと同じです。



オストメイトです。便器と一体型となっています。

銭形の」と言って、下手人（げしゅにん）＝犯人に取り縄をかけるシーンは、平次と万七の友情を見ているようで、実にすがすがしかったです。しかしそこで一つ疑問が出てきました。銭形平次は通称名で、正式の名前は「神田明神下の平次」といいます。一方、万七は三ノ輪を領地とする岡っ引きという設定で、野村胡堂（のむらこどう）の原作には書かれているようですが、しかし現実には神田明神下と三ノ輪は、2～3^{キロ}はあると思うのですが、車も電車も走っていない時代に、平次と万七はどこの番屋で会い、どこで起こった事件に関わったのでしょうか？いくら空想の小説の世界でも、不自然だと思います。まあ実際には岡っ引きなんていう仕事はなかったみたいですね。ただ、町奉行所に仕える、同心や、与力の手先のような人はいたという事は聞いたことがあります。ですから時代劇に出て来る、カッコいい岡っ引きなんて考えられないですね。



右側が銭形平次の大川橋蔵です。
左側が遠藤太津郎の三ノ輪の万七です。

さて三ノ輪橋周辺には、テレビコマーシャルで有名になった大きなスーパーマーケットや、両区を結ぶ明治通り、日光街道に続いている昭和通りも通っています。それだけのアクセスの良い、立地条件もいい場所ならその周辺も台東区になればいいと思うのですが、荒川区民の中にも両区が一緒になれば良いと思う人がいるかもしれませんねえ。しかしもしそんな事になって、荒川、台東の両区が一緒になり合併ということになったら、新たな区が出来るということになり、例えば台東区は三ノ輪のほか、浅草、今戸、清川、東浅草、橋場、竜泉、日本堤、千束が荒川区南千住と一緒にとなり、入谷、下谷、松が谷、上野、谷中、上野桜木、根岸、池之端が荒川区の尾久や、日暮里、町屋と一緒にすれば少しは立地条件もよくなることもあるでしょう。しかしもしそんなことになって新たに合併した町は、どっち区の名前を優先的に付けるのか？

そもそも台東区は旧浅草区と、旧下谷区が1947(昭和22)年合併し誕生したそうです。浅草の観音様でお馴染みの金竜山浅草寺は、創建1400年以上の歴史を持ち、浅草六区は劇場や、映画館などの中心だったそうですが、高度成長期1955(昭和30)年の始まった頃、そういった娯楽の中心街は、池袋、新宿、渋谷に移ったそうです。しかし浅草は今も観光地として、人気があるそうです。もう一つ下谷区の上野は、上野公園に国立博物館など日本を代表とする美術館や博物館が多数あるほか東京芸術大学は、芸術大学の最高峰として、『芸術・文化の発信地』となっています。東京の出入り口である上野駅は、1883年(明治16年)に開業。今や上野駅は巨大ターミナル駅の中に飲食店や、衣服、グッズを扱う店舗やスーパーマーケットなどの商業施設でにぎわっています。浅草を中心とした隅田公園周辺は、春は満開の桜の下で花見。夏は花火でにぎわっています。やっぱり台東区は今のままがいいですね。



ここ 20 年で上野駅のバリアフリー化は進んだと思う。エレベーターが設置された事



で地下道が利用出来るようになり、上野公園の山を通らなくても台東区役所やアメ横・上野御徒町駅や御徒町の映画館に快適に行く事が出来るようになった。地下道を通れば雨が降ってもカッパを着なくて良いし、信号も無ければ車も自

転車も無い。

多目的トイレや一般のトイレの中にも車いすでも入れる広さの個室が増えて、長時間の我慢を強いられる事が以前よりは少なくなった。

スロープも増えて回り道をしなくても済むようになった事は大きい。

車いすの入れるスペースの店も増えた。

安心して外出できるようになってきた

と思います



皆様お元気でしょうか？前号の38号で、私が出前を頼もうとした飲食店の対応について、悪かったことを浅草の所為の書き方をしてしまったこと、浅草神社のスロープについて、自分の車いすを基準として感想を書いてしまい、読者様から御注意を受けました。申し訳ございませんでした。以降慎重に言葉を選んで書いていきたいと思ひます。

さて令和6年度の秋ビッグサイトで、例年通り国際福祉機器展が行われました。お馴染みの手動車椅子は、利用者に合わせたいろいろな形があり、電動車いすも、体の体制を自分で直せる機能が付いた物が、いろいろなメーカーから出来たようです。車いすの役割は、ただ利用者の移動手段として使うのではなく、普段の生活、例えば、食事をする時、勉強、仕事、就寝前に寝床までの移動手段など、いろいろな用途に対応するのが21世紀の車いすの姿ではないでしょうか？シートが上下に動くリフト機能や、体を倒せるリクライニング機能が付いている電動車いすが展示されていました。私もそういう機能の付いた電動車いすに乗り換えて快適な生活を送っています。



ところで特集記事で台東区のことを書かせてもらいましたが、まだまだこの台東区にはいろいろな地名がいっぱい残っています。例えば、今も残っている町名で花川戸（はなかわど）があります。その花川戸に大口屋治兵衛（おおぐちやじへい）という江戸時代に実際にいた札差商人。今でいうステッカー、千住札を作る職人だったそうです。その治兵衛は豪商（大事業家）で、侠客（きょうきやく＝強きをくじく人）だったそうです。その治兵衛を9代目市川歌右衛門が、歌舞伎で花川戸助六として演じたそうです。



もう一つ花川戸にある花川戸公園には、姥ヶ原池跡（うばがはらいけあと）があり、その周辺は浅茅ヶ原（あさちがはら）と呼ばれている所がありました。その浅茅ヶ原の一軒家に、老婆（姥ヶ原の婆＝ばば）と娘が住んでいてそこに、よそから来た旅人を娘に誘わせて、婆と住んでいる家に泊めます。婆の目的は石枕（いしまくら）で旅人を殺し、持っていた金品を奪う目的でしたが、そんな婆の行いを娘が注意していましたが、婆は聞く耳持たず旅人を殺してしまふ。そうやって婆に殺された旅人は何人もいましたが、いつものように、娘が招き入れた旅人を婆は殺したのですが、ところが婆に殺されたのは旅人に変装した娘だったのです。その事に気づいた婆は、ショックを受けて、池に身を投げたという事です。これが花川戸の浅茅ヶ原の伝説でした。私自身花川戸は、浅草に近いのでそんな伝説があるとはしりませんでした。まちの名前の由来は花の名所である、向島の戸口と言わ

れたので「花川戸」となったそうです。花川戸公園は1丁目14番地が南側で、2-4-15番地が北側だそうです。

さて花川戸のある江戸通りは千代田区大手町まで通っています。その江戸通りには「エキミセ浅草店」があり、地下に東武スカイツリーラインが通っています。その「エキミセ」を裏に入ると二天門通りとなり、通りの名前にもなっている、浅草観音に続く二天門に、入る間迎えに「東京都立貿易センター・台東館9階」で、「べらぼう 江戸 大河ドラマ館」が今年令和7年2月1日から、来年令和8年1月12日まで開催しています。全く個人的な事ですが、このべらぼうの舞台になっている界限は、私の自宅の近所です。それにしても台東区には、町名としては使われなくなった名称が、通り名として残っている馬道（うまみち）や、浅草通りの地下鉄日比谷線の駅、田原町（たわらまち）、稲荷町（いなりちょう）、さらに上野の方に行くと、黒門町（くろもんちょう）、浅草の方には光月町（こうげつちょう）、現住所は千束2丁目、3丁目辺りがそれから国際通りのビューホテルの前に立て看板があり、旧町名で浅草芝崎町（あさくさしばさきちょう）と書いてありました。旧町名の事細かな謂れなど、ご興味のある方は、インターネット等で調べるのもいいでしょうね？

さて、21世紀となり年月が4分の1年過ぎ、令和となり6年経ちました。新型コロナウイルスの流行から始まり、地震や災害、国外では戦争が始まり、まだ終結を迎えてない状態です。人類はなぜ戦争に至るのか？私にははっきりとした答えは出せません。ただ人間はみんな欲望があるからではないでしょうか？自分が幸福のために持つ欲望は、時には他人を傷つける結果になることもある。子どもの頃の私は車好きでした。これといって車種にも年式にもこだわりもなく、ただ、マイカーとして乗れるのだったら、どんな車でもいい。しかし現実を見ると、開けても、暮れても報道は自動車事故ばかり。特にここ10年20年ニュースで、聞かない日はないと言っても、過言ではありません。自動車事故は特に、被害者も加害者もつらいのはもちろんでしょう。それにそれ以上に、心の傷は一生消えないでしょう。

昔、母がよく言っていたことで未だに思い出すのが、ある男性ボーカルグループのひとりが、車を運転していて、誤まって人を轢いたそうです。幸いにも被害は、軽く済んだそうですが、一生加害者に謝罪し続けたそうです。命を授かった人間は、その命を全うするまで戦うのが務めだと思います。

**私の新聞にご賛同、応援して頂ける方はご寄付金 1,000 円(年間1回程度)を
長澤まで宜しくお願い致します。**

また、特定非営利活動法人自立生活センターたいとうの活動にご賛同いただける方、賛助会員としてご支援をお願いしております。

正会員	年会費	5,000円
賛助会員	年会費 個人会員一口	3,000円
団体会員一口		10,000円